2024.6.9
とめよう！原発依存社会への暴走 大集会
～地震も事故もまったなし～

●集会プログラム

12：10～12：55 オープニング ライブ → ① Swing Masa
② 三線（奈良の森本）
③ 関西のうたごえ
④ 福井のうたごえ

13：00　開 会

◆ **司　会**　堀田 みえこ（原発ゼロ・被災者支援奈良のつどい実行委員会）
◆ **主催者あいさつ**　中嶌 哲演（原子力発電に反対する福井県民会議）
◆「とめよう！原発依存社会への暴走　地震も事故もまったなし」
木原 壯林（老朽原発うごかすな！実行委員会）

■ **地震と原発**
「能登半島地震が教えること」北野 進（志賀原発を廃炉に！訴訟・原告団長）

■ **老朽原発うごかすな**
◇福井から　オール福井反原発連絡会
◇東海第二原発の地元から　東海第二原発首都圏連絡会

■ **老朽原発裁判**
「老朽原発差し止め裁判に勝利しよう」　老朽原発 40 年廃炉訴訟 市民の会

■ **使用済核燃料の発生源＝原発とめよう**
◇青森から　核燃料廃棄物搬入阻止実行委員会
◇福井から　ふるさとを守る高浜・おおいの会

◆ポテッカーを掲げるアクション
◆カンパアピール

■**「汚染水で地球を汚すな」**　核汚染水ストップ世界市民行進　イ ウォニョン
■**「避難の権利、国の責任を認めよ」**　原発賠償京都訴訟 原告団

■ **労働者の力で原発とめよう**
◇大阪平和人権センター
◇全国労働組合総連合（全労連）近畿ブロック
◇おおさかユニオンネットワーク

■ **全国各地からのメッセージ紹介**
■ **参加政党の紹介**

◆**『集会宣言』提案と採択**　山本 雅彦（オール福井反原発連絡会）
◆ **デモの説明**

14：30 閉 会 ⇨ デモのスタート

●全国で脱原発を闘う仲間からの連帯メッセージ

メッセージ

北海道 後志（しりべし）・原発とエネルギーを考える会　佐藤 英行

5 月 27 日、北海道電力泊原発 3 号機の視察をした。使用済核燃料の保管プールが見える見学者スペースから、IAEA が設置しているビデオカメラが全体を見渡せるように設置されているのが見える。見学者スペースに説明文が掲示されていた。燃料の可採埋蔵量が平成 19 年で、石油 42 年、石炭 133 年、天然ガス 60 年、ウラン 100 年とあった。

相変わらずの不安あおりの説明文である。再エネは何年だ！！

原発事故時、原子力防災計画の避難の手順では、①屋内退避、②指定された場所に集合、③バスであらかじめ指定されている場所へ移動、④集合場所から宿泊場所へ分散移動、バスが来られない場合自衛隊等に依頼、船やヘリコプターで避難、となっている。①家は壊れた、②指定場所に行く道路がダメ、③バスは来ない、④船もヘリコプターも悪天候、吹雪で来ることができない。1 月 1 日発生した能登半島地震は避難計画の実効性がないことを白日の下に晒した。実効性がないことは避難が不可能だということである。

住民の戦いで珠洲原発の建設阻止ができた。また、志賀原発は幸いにも運転していなかった。

地震はいつどこで起きるか予想はできない。どこでもいつでも起きることは否定できないのだ。

政府、原子力村は、福島を忘れ、能登半島地震が自然災害のみとし、原発立地地域での地震も事故も起きないかの如く、原発再稼働、原発依存社会へと突き進んでいる。

私たちはその状況を許すことはできない。何としても再稼働を阻止し脱原発社会を実現しなければならない。

「とめよう！原発依存社会への暴走 大集会」へのメッセージ

核の中間貯蔵施設はいらない！下北の会 代表　野坂 庸子

「とめよう！原発依存社会への暴走 大集会」へ結集されたみなさまに、心よりの連帯のメッセージを送ります。

当地むつ市も使用済み核燃料中間貯蔵施設の操業に向けて本年度第 2 四半期中に使用済み核燃料装填キャスク 1 基が東京電力柏崎刈羽原発から搬入されるスケジュールが示されました。現在はこの施設の操業に向けて青森県およびむつ市は住民説明会や安全協定締結への準備作業に狂奔しています。

しかし、ご承知のとおり貯蔵期間終了時の搬出先であるはずの再処理工場はその稼働は全く見通せません。こうした状況でひとたび使用済み核燃料を受け入れるならば、まさに最終貯蔵となることは明らかです。私たちはふるさとが核のゴミ捨て場となることは断じて認められません。みなさんのご支援をいただきながら本施設の稼働に最後まで反対する決意です。そしてこの闘いに勝利することは、とりも直さず全国の老朽化原発の再稼働を断念させることに繋がります。

共に手を携えて頑張りましょう。本集会が成功裡に終えることを祈念し連帯のメッセージと致します。

日本原燃 増田社長 語録

青森・核燃料廃棄物搬入阻止実行委員会 事務局長　中道 雅史

2024 年 1 月 31 日、六ヶ所核燃サイクル施設の事業主体である日本原燃は、再処理工場の「今年 6 月完工」を撤回している。その際「目標」は 9 月に変えた。しかし、誰が見ても、日本原燃による 27 回目の再処理工場完工延期のアナウンスは必至。

強気一辺倒だった日本原燃の増田尚宏社長（東京電力出身）の最近の語録を並べてみよう。

3 月 28 日、「軽々に先の予想ができない」「(9 月の完工目標時期は）食らいついていきたい」「9 月の竣工を達成するべく知恵を絞る」。だが、原子力規制委員会による設工認（設計及び工事の計画の認可）審査が長期化していることについて山登りに例えた問いには「何合目にいるのか分からない。われわれが山の高さを見誤っていたのかもしれない」と答える始末。

4 月 25 日には、9 月完成は「6 月までに提示」と言い放ったが、5 月 29 日、「7 月に入ってしまっても仕方

がない」と言うしかなかった。

再処理工場完成が見通せない社長は、はぐらかすように会見で話し始めた。

政府が改定議論に着手したエネルギー基本計画を巡り「核燃料サイクル、特にウラン濃縮が重要だと国の計画でうたってほしい」「エネルギー安全保障の観点から供給網の確保など、技術を国内だけでキープすべき重要なもの」と強調した。濃縮ウランのシェアは圧倒的にロシアが大きいので、ウクライナ情勢をにらみ、六ヶ所のウラン濃縮工場の存在意義を示したいのだろう。だけど、その工場もトラブル続きなのに。

極め付きは、現行計画の「可能な限り原発依存度を低減する」との記述については削除を求めたことだ。「豊かな暮らし、地球温暖化対策には原子力が必要で、（低減という）この言葉を削除してもらいたい」。

現実は厳しい。目をそらしたいのか？　増田社長。

9月 女川2号機再稼働を止める闘いを！

みやぎ脱原発・風の会　舘脇 章宏

宮城県で初めての脱原発全国集会が3月23日仙台市勾当台公園市民広場で開催され、参加者 1000 人、240 団体から協賛が集まり大成功となった。鎌田慧さんが「青森では核施設が集中し、東北では原発がつくられて来ましたが、これは沖縄の先島諸島が戦場化しているのと同じで地方をまったくバカにするものです。カネと暴力と陰謀と議会の非民主主義、これが原発をつくってきた。自然エネルギーが静かに電気を作っていく、そういう平和な社会が絶対にきます」と発言。他にも、福島の佐藤和良さん、柏崎の武本和幸さん、東海第二現地から大石光伸さん、青森の大竹進さん、Fridays For Future Sendai の青木啓さんからそれぞれ思いのこもった発言をうけた（発言の抄訳は「鳴り砂」http://miyagi-kazenokai.com/）。

宮城県と東北電力は「女川原子力発電所環境調査測定技術会」で能登半島地震を受けた対策を発表したが、地殻変動が考慮されていないなど全く対策になっていないもので、さすがに委員からも「県は、県民の不安を払しょくできる提案をしていただきたい」と発言せざるを得ないものだった。女川 2 号機の稼働を確実にするための乾式貯蔵計画も発表されたが、誰も引き受けることのできない核のゴミをこれ以上増やすことは許されない。7 月 7 日には、地元女川で青木美希さんの講演会が行われ、今世紀はじめて女川で町内デモが行われる予定だ。ともに原発ゼロをめざし頑張りましょう！

ふくしまの思い

原発いらね！ふくしま女と仲間たち　春木 正美

福島に来て二十年余り。私の震災への思い。それは原発事故に対する怒りです。今までもこれからも、その思いはずっと続きます。国が責任を認めるその日まで。大阪で阪神・淡路大震災も経験しました。街にも人にも復興の実感がある阪神・淡路大震災とは違い、福島は原発事故の影響で、なかなか復興の実感がわきません。地震よりも原発事故の恐ろしさの方が、身に沁みます。

お母さん同士で、子どもにお弁当を持たせるか、放射能を気にするか分断があります。意見が分かれると気まずくなるので、わだかまりなく話せなくなりました。「原発さえなければ」という思いを口にしてはならない。自分の思いを自由に語ってはいけない。そんな雰囲気があります。家族間で分断が起こる場合もあり、震災関連離婚に至るケースすらあります。

でも、だからこそ私は、自分の思いをメロディーに乗せて届けたいのです。

♪私たちの海を守ってほしい。切なる願いよ、国まで届け、世界に届け

♪青い海 青い空 青い地球を守りたい 私たちの暮らしに原発はいらない 原発よ さようなら

♪立ち上がれ つながりあえ 声を限りに叫べ 立ち上がれ つながりあえ 子どものために 未来のために 声よ 世界へ響け！

県も村も 住民の声を聞かない気 満々

東海村議会議員　阿部 功志

■茨城県の東海第二原発地域には 30 キロ圏に 92 万人もの人が住んでいます。しかし、原発事故の際、最大でも 17 万人の避難で済むという無責任発言を大井川県知事が流しました。

茨城県が日本原電に出させた放射性物質拡散シミュレーションでは事故シナリオがたった 2 パターンだけで、福島級事故の 100 分の 1 の放出量で想定、気象サンプルはわずか 22（以前、規制庁が出したのでは 8760 サンプル）です。何より県の要請で、放射性物質は 30 キロから外へは拡散しないという条件です。

先日、県民有志 331 名が、県のシミュレーション公報はわかりにくいので説明会を開いてと要求しましたが、県は 5 月 20 日付で、わかりやすいという声が多いという理由で**説明会開催を拒否**しました。

事故が起こっても大したことはない、というミスリードを県知事がして、92 万人の避難が不可能だから避難する人数を少なくしてしまえというわけです。でたらめすぎて話になりません。

■東海村は、2023 年 12 月末に村の避難計画が策定できたと山田村長が発表しました。でも詳細な資料を村民に配る見通しは未定で、**説明会を開いてと要請しても開く予定はない**、と突っぱねます。

■要するに、茨城県も東海村も、**突っ込まれると何も答えられないから逃げている**のです。

こんな体たらくで東海第二の再稼働をしようなんて、絶対に許すわけにはいきません。知らない住民にわかりやすく情報を流すことが急務です。

【5.22 原子力規制委員会 抗議 全国一斉行動】を実施

再稼働阻止全国ネットワーク　木村 雅英

原子力規制委員会は、能登半島地震の警告を真剣に受け止めず、相変らず「再稼働推進委員会」。その暴走を止めるべく再稼働阻止全国ネットワークで ＜**【5. 22 原子力規制委員会 抗議 全国一斉行動】天を恐れよ、地震は止められない、原発は止められる、甘い耐震、実効性無き避難計画、危険な使用済み核燃料、東電を許すな**＞ を実行した。原発立地地域を中心に全国十地域で規制事務所や地元自治体への抗議・申入れなどを実施。東京では、原子力規制委員会のビル前（六本木）で抗議行動、「原子力規制委員会は国民の生命と安全を守るためすべての原発を直ちに止めてください 」と訴える抗議・申入書を提出した。また、内閣府にも抗議・申入書を提出。

さて、「火力発電と原子力発電の違い」はボイラーと原子炉の違い。原子力発電も火力発電と同様に「水を沸かし、蒸気の力でタービンを回転させて電気を起こす」装置。ただ、原発は蒸気を作る為に原子炉で核分裂を起こす愚かな装置だ。

それ故に原発を動かすと危険で行き場が無い使用済み核燃料を大量に貯め込む。再稼働阻止全国ネットワークでは使用済み核燃料の危険を訴えるパンフレットを策定中。4 月改訂のリーフレットとともに全国で活用していただきたい。

また「第 7 次エネルギー基本計画」策定が始まった。何としても「原発依存社会への暴走」をとめよう。

6.9「とめよう！原発依存社会への暴走 大集会 ～地震も事故もまったなし～」参加のみなさまへメッセージ

たんぽぽ舎　柳田 真

◎ たんぽぽ舎は、本年 5 月に第 36 回総会（8 つの基本方針…日本核武装・核兵器技術の蓄積を断つ、などを決定）と記念講演（75 名が参加）を開催しました。1989 年発足以来、東京の地において反原発運動ひと筋で活動を継続してきました。

◎ 現在は、毎月 3 回の定例行動＝第 1 水曜の日本原電本店（抗議と申し入れ）、東電本店（抗議と申し入れ）、第 3 金曜の官邸前原発いらない金曜行動に参加。

プラスして、3 カ月に 1 回の「東海第二原発うごかすな！一斉行動」（JR 御茶ノ水駅前）、「東京に一番近い東海第二原発の再稼働を許さない」茨城現地集会や各地の原発反対行動への参加など、取り組んでいます。

◎ また、たんぽぽ舎内の会議室を利用して、原発問題だけに限らず様々なテーマで「学習会」・「講座」を継続して開催してきました。（現在、852 回開催）

◎ 地震多発国・日本で原発を稼働してはいけない。1 月 1 日の「能登半島地震」が示したように、日本では予知できない大きな地震がどこで起きるかわかりません。

稼働原発の即時廃止を求め、引き続き、粘り強く闘い続ける所存です。

確かに、私たちは、3・11 東電福島第一原発過酷事故や、昨年の岸田政権による GX 法ごり押しも、核汚染水海洋放出も、止められませんでした。が、国会前の抗議・阻止行動で、今後のヒントも得ました。GX 法の具体法律はまだできていない、今後の闘いしだいだ、と。

◎「脱原発は愛と正義」です。勇気はお墓に持ってい

けません！
ご一緒に闘いましょう！

時宜に合った大集会 ～地震も事故もまったなし～
6.9 大集会の成功を祈念致します。

連帯のメッセージ

柏崎刈羽原発絶対反対地元有志 代表　近藤 容人、高田 勝広

原子力規制庁は昨年 12 月 27 日実質的再稼働を認める結論を出した。

これを受け、東電は新潟県内 5 か所で説明会を開催してきた。いずれの会場においても、能登半島地震の教訓から、「地盤の悪い所に建設されている、柏崎刈羽原発は地震の際に事故を起こし、放射能をまき散らすおそれがある。大雪の際避難できるのか。避難計画が策定されていない。」と多くの参加者が反対意見を述べてきた。

地元柏崎市長は、三月中旬以降、「市民との懇談会」と称し再稼働を進める立場で「原発は安全である、福島事故でも健康被害は確認されていない、原発再稼働は国策であり、これに寄与するのが、柏崎市の責務である。再稼働により地元経済が潤う。」と持論の発表会を開いた。参加者の多くは反対の立場で意見を述べた。

事故の際の責任について問われると「国、東電が責任を取る」とし、地元市長としての責任をとらない態度を示した。

東電は 4 月 15 日以降 7 号機に核燃料の装荷作業を行い、4 月末に終了した。この作業の中で、ブレイカーが落ち、作業が何回も中止された。

入構証を帰宅の際、落とし、近隣住民に拾ってもらった東電職員がいた。これは「核物質を扱う責任意識」に欠如している職員がいることを示した。

原発から半径 5 ～ 30 キロメートル圏（＝ UPZ）内の有志市議会議員の会では、「再稼働にあたっては、UPZ 圏内の全ての自治体の同意なしでは、再稼働すべきでない」とする意見書提出採択に向け準備している。

柏崎刈羽原発の現状を報告させてもらいメッセージといたします。

本日の集会が成功することを期待いたします。

浜岡からのメッセージを送ります

浜岡原発を考える静岡ネットワーク 代表　鈴木 卓馬

能登半島地震は、改めて原発の恐ろしさを私たちに突きつけました。にも拘わらず「原子力ムラ」にたむろする面々の往生際の悪さにはあきれ果ててしまいます。ならば、私たちの闘いもより一層強化拡大しなければなりません。

5 月 26 日、静岡県知事選挙が行われました。当選したのは、立憲民主、国民民主、労働団体県連合の支持を受けての元浜松市長の鈴木康友氏。自民党は他の候補を支持し敗北しましたが、鈴木康友とて、もともとは自民系の人、原発推進とみていいでしょう。舌禍事件で突如退任した前知事の川勝は、明言はしませんでしたが、浜岡再稼働にどちらかと言えば「反対」の立場でした。それだけに、今後の反原発の闘いはやりにくい面を迎えることになる。

5 月は、菅直人元首相の要請で、浜岡原発が停止してから 13 年になる。メディアは、5 月になると一斉に世論調査を行う。国のエネルギー危機と温暖化の宣伝が功を奏してか、残念ながら再稼働賛成派が増加しつつある。しかし、中部電力側にとっても依然として再稼働へのハードルが高いことは事実だ。基準地震動、基準津波、避難計画は避けて通ることは出来ない。何しろ浜岡原発は、南海トラフ巨大地震の震源域の真上に立地しているからだ。活断層云々のはなしではない。巨大地震の発生を国も中部電力自身も、そして誰も否定はしていない。しかも、巨大地震がどの程度のものか、誰にも想定出来ない。このことを念頭に法廷での闘いと大衆運動を連動させ、全国の皆さんと共にがんばる決意です。

6.9「とめよう！原発依存社会への暴走 大集会」にご参加の皆さん、静岡の状況を伝えながら、メッセージと致します。

6.9「とめよう！原発依存社会への暴走 大集会」にご参加の皆様へ

志賀原発を廃炉に！訴訟 原告団長　北野 進

能登半島地震から 5 か月が経過しました。いまだ志賀原発の被害の全容は不明ですが、徐々にその深刻さ

が明らかになっています。

外部電源の一時喪失につながった1、2号機の変圧器損傷の原因はいまだ解明できていません。2 号機のタービンは4月に入り、なんと10カ所も損傷していたことが明らかにされ、さらに点検が必要とのこと。北陸電力は「タービンの停止中に発生したものであり、原子力安全の確保に影響はない」と居直っていますが、停止中のタービンに多数の損傷ができること自体驚きであり、運転中だったら大変な被害になったと思われます。敷地内の地盤の沈下や傾きも 5 カ所とされてきましたが、「敷地地盤の変状」が実は 79 カ所もあったことが4月12日の規制委・審査会合で報告されています。敷地内断層との関連はないのか徹底解明が求められます。

タービンはボロボロ、敷地はガタガタ、あらためて「13 年間止まっていてよかった」と痛感します。北陸電力は昨年の株主総会で「M8.1 でも耐震安全性は確保されている」と大見えを切っていました。再稼働など絶対に許されません。

このお粗末さは果たして志賀原発だけでしょうか。稼働中の原発含め、日本中で恐怖の耐震実験が行われているようなものではないでしょうか。本日の大集会の大成功で「原発依存社会への暴走」に待ったをかけ、次は6月30日の金沢集会でお会いしましょう！

6.9「とめよう！原発依存社会への暴走 大集会 ～地震も事故もまったなし～」への連帯メッセージ

さよなら原発・ぎふ　伊藤 久司

能登半島大地震では、地震大国の日本には、安全な場所などないことがはっきりと示されました。

私たち「さよなら原発・ぎふ」は2012年3月、美浜原発近くの水晶浜から、1,000個の風船を飛ばして、風向き調査を行いました。その結果、84 %が岐阜県内で発見され、もしも福井の原発で事故が起きれば、岐阜にも甚大な放射能汚染の被害が及ぶことがわかりました。このことは、同年 9 月に岐阜県が実施した「放射性物質拡散シュミレーション」でも明らかになっています。

岐阜県は若狭湾岸の多くの原発と太平洋岸の浜岡原発に挟まれています。どこで大地震が起こっても危険にさらされます。しかし原発立地県ではないので報道も少なく、県民の関心も高いとはいえません。住民からの突き上げがないので、行政も有効な避難計画を立てようとしていません。もし「何か」があれば、大混乱のうちに大勢の人が被曝してしまいます。

原発依存社会への暴走を黙ってみていることはできません。6月 10 日には「原発とめよう！」の街頭宣伝を、6月 16 日には 51 回目となる「さよなら原発パレード in ぎふ／地震はとめれん！原発うごかすな」を行います。

私たちは、あきらめることなく、岐阜の地から脱原発を訴えていきます。原発ゼロに向けて、ともに頑張りましょう！

（https://ameblo.jp/611gifu/）

勝利を勝ち取るために力を合わせましょう

老朽原発40年廃炉訴訟市民の会　草地 妙子

私たちは、名古屋地裁で高浜原発 1，2 号機と美浜原発 3 号機に出された「運転期間延長認可」等の取り消しを求めて闘っています。2016 年 4 月 14 日、まさに熊本地震が起きたその日に提訴しました。あれから丸8年が経過し、ようやく結審を迎えようとしています。

この間、原子力規制委員会の審査の杜撰さ、新規制基準の緩さを明らかにしてきました。福島原発事故の教訓を忘れ、基準に合格さえすれば、60 年運転も、60 年以上の運転も何ら問題ないとして原発延命させようとする情勢の中、原子力規制の在り方を根本から問い直す非常に重要な裁判だと思っています。また、老朽化の問題を争点とする行政訴訟は全国初です。今後、全国の原発が次々と40年を迎えようとする時、ここでの勝利が脱原発の大きな力となっていくはずです。

裁判所には、行政を追認せず、原発の危険性、被害の大きさを十分考え、二度と原発事故を起こしてはならないと願う私たちの声に向き合ってほしいと思います。そのためにも、私たちは、より大きな、切実な声を届けていかなければなりません。

福井の地元の皆様、大阪はじめ関西圏の皆様、全国の皆様からお力を頂きながら、共に闘っていきたいと思います。今後ともよろしくお願いいたします。

次回期日で結審となります。 次回は、7月 19 日（金）10：30 ～と 14：00 ～です。応援よろしくお願いいたします。

日本の原発は新たな転換期に入った

ふるさとを守る高浜・おおいの会（高浜町）　東山 幸弘

昨年の GX 法で原発寿命が 40 年から 60 年超になった。原発を運転すれば使用済み核燃料ができる。何処の原発でも使用済み燃料プールは満杯に近い。運転を続けるには敷地外に持ち出すか、敷地内の地上保管以外ない。

若狭の原発 11 基を持つ関西電力は昨年 10 月 10 日、「使用済燃料対策ロードマップ」で、県外への搬出を示した。一部 200 トンをフランスへの搬出と、今年完成、来年から操業開始する六ヵ所再処理工場へ搬出する。そして 2030 年頃に完成する県外の「中間貯蔵施設」に搬出するまで原発敷地内にプールから上げて乾式貯蔵したいと。2 月 8 日、福井県知事と議会に示し、計画を規制委に申請する了承を求めた。2025 年から 2030 年にかけて高浜、大飯、美浜の 3 敷地内に乾式容器 65 基に 1,530 体（700 トン）の使用済燃料を貯蔵。堅牢な建屋でなく、コンクリートパネルで囲っただけの野晒し保管をすると。この計画に対し、杉本知事も県議会も「いつまで置くのか」、関電に質さないまま、規制委の審査後の次の事前了解でと誤魔化し、「永久におかれるのではないのか」との県民の不安の声に耳を貸そうともしない。

ロードマップ通り進むはずもなく、六ヵ所再処理工場はやるやる詐欺の如く稼働は先延ばしになり、取りざたされている上関中間貯蔵施設への言及もない、たとえ建設ゴーが出ても 2030 年には間に合わず、「乾式貯蔵にしても、敷地内総量は変えない」と公言するが 2029 年には満杯になる。その頃になれば電力消費者に「止めるな、動かせ」という世論を作り出すだろう。

トラブル続きの高浜 3 号 4 号は来年 40 年。高浜 1 号は今年、2 号は来年、美浜 3 号は再来年 50 年の老朽原発。老体に鞭打って動かす暴挙、いつ起こるかわからない地震と二乗のリスクを抱える。もう止める以外にない。

GX 脱炭素電源法は撤回せよ

ふるさとを守る高浜・おおいの会（おおい町）　宮崎 慈空

「地球温暖化の時代は終わり、沸騰化の時代に入った」、国連グテーレス事務総長の警告です。如何にして脱炭素社会を実現していくか、これが先進各国の課題となった。

福一原発震災以降、風水力、太陽光、バイオ、地熱などの厖大豊富な再エネの伸張を抑圧しながらも、躍起となって命脈を維持してきた原発の利権集団は、この温暖化問題を復権の口実に仕立て上げ、昨年 5 月に国会で『GX 脱炭素電源法』が成立した。強引で無謀な政策大転換です。

そもそも原発は脱炭素エネルギーではない。燃料ウランの採掘精製を始め、発電装置の建設維持等、あらゆる工程で大量の化石燃料が使われている。更に、標準型の原発は 300 万 kW の熱を出し、うち 200 万 kW は放水時、海を温めている『海温め装置』なのです。『GX 脱炭素電源法』は即刻撤回すべきです。

実は大手電気事業者経産省等、科学性や倫理観に乏しい原発利権集団の人達にとっては、原発推進のための『口実』になるものは、元もと何でも良かったのです。ひと昔前までは「原発の発電コストは一番安い」ということでした。しかしこれは嘘で、かなり高コストだったと証明されました。これに替わる口実として温暖化問題に飛びついたのでしょう。

若狭では、問題大ありの 7 基が再稼働している。GX 法成立以降、なり振り構わずの暴走が始まった。私たちの国土と命は私達一人ひとりの総力で護らなければならない、（温暖化対策とともに）子孫のためにも。

6.9 集会へのメッセージ

原発設置反対小浜市民の会　坂上 和代

日頃の粘り強いご活動にお礼申し上げます。集会参加の呼びかけ文の中の「市民の命と尊厳は市民の手で守る覚悟」という件に胸が熱くなりました。私達の運動・闘いこそが命と尊厳を守ることの手だてなのだ、と改めて決意しました。

フクシマからの避難者である、菅野みずえさんから、「あなたの寄って立っているところで闘ってください。」と、かつて言われました。小浜市では 7 月に市長選挙があります。小浜市は「準立地」ですが、この「準立地」にも、再稼働させる際の「同意権」を明記した、

関電との新協定を結ぶことについての公開質問状を、予定候補者に出しました。私達は一貫して、立地地と同じ「同意権」を要求しています。また、大飯、高浜、美浜の各原発敷地内設置の乾式貯蔵についての見解と、稼働し続けながら、核のゴミを生み出し続けながらの、乾式貯蔵の論議ではたしていいのだろうか、先ずは稼働を止めてから論議するべきだはないかと公開質問状で質しています。

3 月に、原発を設計された技術者である後藤政志氏の講演会がありました。「とてもよく分かりいいお話でした。この原発に反対する世論を大きくする方法は何？」という参加者に対する後藤先生のこたえは、「あなたが分かりよかった！と思ったことを、あなたの愛する 2 人に伝えて下さい。その 2 人もそれぞれ 2 人に伝えるように。」鼠算式にしていくのです。

関電に 1 人就職すれば、10 軒の家族を黙らせることができる（原発反対を言わせない）、とされている若狭で粘り強く運動を拡げてゆきたいです。

メッセージ

さよなら島根原発ネットワーク　芦原 康江

能登半島地震は、私達に原発震災が起きれば多くの住民が避難することもできず、一層の被ばくを強いられてしまうことを明示しています。そして、北陸電力が複数の活断層の連動を的確に評価できなかったことは、全ての原発における耐震安全性が信頼を喪失することにもなりました。

この新たな事態を受け、本来であれば原子力規制員会や各立地自治体などは、電力会社に対して全ての原発の再稼働中止を求めなければならないはずです。それでも、この国にはその気配もありません。電力会社も稼働に向かって突っ走り、現に運転再開させた原発は止めるどころか、老朽原発に鞭打ち、さらなる長期運転へと強行しています。これは、深刻な原発震災に向かって近づこうとする暴挙です。

私たちの町の島根原発 2 号機は、再稼働の時期が 12 月へと延期されていますが、この動きを止めるための仮処分申立は、5 月 15 日に決定が出されました。その内容は、島根原発の再稼動がもたらす様々な問題を認めながら、「総合的に判断すれば合理性がある」などと、行政用語を使って中国電力の主張を採用し、実効性なき避難計画には一切触れることなく、申し立てを却下するというものでした。これは、先に答えがあり、それに見合う理屈を後付けしていったとしか思えず、私達住民はこの決定を到底容認することができません。

私達は必ず再稼働を止めるため、これからも声を上げ続けていきたいと思います。

自然を活かした町作りで
上関原発も中間貯蔵施設も白紙撤回へ！！

上関の自然を守る会 共同代表　高島 美登里

6. 9「とめよう！原発依存社会への暴走 大集会～地震も事故もまったなし～」に結集された皆さんに心よりエールのメッセージを送ります。

上関中間貯蔵施設をめぐって、中国電力は 4 月 23 日に反対派住民の抗議にもかかわらずボーリング調査に着手しました。いかにも計画に向かって一歩進んだかに見えますが、決してそうではありません！　町内ではマスコミのアンケートに 59 %が反対の意思表示を示し、町役場が募集した東海第二原発視察も目標 50 名に対し 21 名しか参加しないなど最終処分場になる不安や関電のゴミ引き受けへの抵抗感が渦巻いています。周辺市町でも首長や議会をはじめ多くの住民が町作りの障害になると懸念を表明し、山口県知事も原発と他の使用済み核燃料を持ち込む中間貯蔵施設を受け入れているところはない」と慎重論を表明しています。

こうした世論を背景に私たちは中間貯蔵施設反対署名を展開し、中国電力に 27 万 5,043 筆、関西電力に 26 万 3,230 筆を提出しました。併せて新聞の意見広告などへのカンパ活動を行い全国から 150 万円のカンパを頂き、中間貯蔵施設の問題点の広報活動を展開しています。今後も抗議集会や連鎖講演会を企画し広範な反対の包囲網を形成します。また、自然を活かし漁師文化を守る取り組みを通じて核の財源に頼らない町作りの具体化を進めて行きます。

上関は南海トラフ地震の震源域に隣接しており、地質学者が誘発地震の警告を発しています。地震大国の日本に原発も使用済み核燃料保管施設も適地はありません。1 日も早く岸田政権と原子力ムラの息の根を止めるため、私たちも上関の地で原発と中間貯蔵施設白紙撤回に向けて奮闘します！共に頑張りましょう！！

老朽原発うごかすな！新規原発作るな！
核の被害の無い世界を共に作ろう！

上関原発を建てさせない山口県民連絡会

6.9「とめよう！原発依存社会への暴走 大集会～地震も事故もまったなし～」に結集された皆様に、心からの激励と連帯の気持ちを送ります。

3 月 23 日、「2024 上関原発を建てさせない山口大集会」はおかげさまで県内外から 800 名が集まり、原発も中間貯蔵施設もいらないという声をあげました。集会では中嶌哲演さんのお話を聞け、参加者一同、原発も中間貯蔵施設建設にも反対する重要性を再確認しました。連帯メッセージありがとうございました。

また中間貯蔵施設反対の署名を関西電力へ提出した際には一緒に社前闘争を闘え、心強かったです。

当会は県議会へ「使用済み核燃料『中間貯蔵施設』の上関町への建設に反対することを求める請願」を提出し、能登半島地震のことにも触れ、「中間貯蔵施設」の建設に反対することと、そのための調査に反対することを求めました。残念ながら不採択となりましたが粘り強く訴えていくつもりです。

中国電力は上関町民の反対の声を無視し、中間貯蔵施設のためのボーリング調査を強引に開始しました。県内の様々な団体・個人が創意工夫し、反対行動をしています。

当会は更に多くの人々と共にボーリング調査反対、中間貯蔵施設建設反対、上関原発建設白紙撤回の声をあげていきます。共に闘いましょう！

伊方から連帯のメッセージ

伊方から原発をなくす会　近藤 亨子、名出 真一

今年 1 月 1 日の能登半島地震から半年が過ぎようとしていますが、国、県の先頭に立つべき首長の無責任、無能さのために「復興」は遅れに遅れています。住民を見ていない首長が有事の際にどれほど住民を苦しめるかを思い知らされました。

能登半島地震では半島における避難の困難さを見せつけました。伊方原発は日本一細長いと言われる半島の付け根にあります。道路が寸断されれば避難はできず、屋内退避もできません。避難計画は「絵に描いた餅」にすぎません。津波だけなら山に逃げれば助かるかもしれません。しかし、放射能からは逃げられません。

阻止ネットの行動に連帯して規制庁伊方事務所に申し入れを行いました。検査員は「私たちは一つ一つの機器が基準を満たしているかどうかを検査しているだけ。」という言葉からは、たとえ事故が起ころうとも、基準を満たしていれば私たちは知らない。としか聞こえませんでした。政府や裁判所は「規制委員会の審査を通っている」事を理由に原発を止めようとはしません。当の規制委は「検査しているだけ」と言い放つ。今回の行動の後、私たちが決意したことは真正面から電力会社を攻めて攻めて原発を止めさせる。ということです。「命がかかっているのです」。子々孫々の命に対して全ての電力会社に責任がある。「核発電」である原発を止めなければ生きられない。全ての原発廃炉のために闘いましょう！！

伊方よりのメッセージ

原発さよなら四国ネットワーク　井出 久司

3.11 福島第一の過酷事故を経験してはや 13 年が過ぎ、この間熊本地震、さらには今年元旦の能登の大地震も起きた。近い将来必ず起こる南海トラフ巨大地震もいつ起きても不思議ではない状況だが、そんなこの国で未だに原発にしがみつく原子力ムラに筆舌に尽くせぬ怒りしか持ち得ない。そもそも福島第一の収束さえ目処がつかないこの国の無能な原子力ムラに原発を扱う資格も能力もないことは明らかである。然るに現在、福島第一事故の当事者たる東電は柏崎刈羽原発の再稼働を策し、核燃料廃棄物を青森に搬出しつつある。かつまた関西電力は老朽原発高浜 3、4 号機の 60 年稼働延長を申請、原子力規制委員会はこれを許可するという信じられない状況である。これは生きとし生ける全ての生命の願いに反し、また地球の生命歴史に対する冒涜に他ならず、私達の決して認めることのできない暴挙だ。私達はこれに対し心底よりの怒りと抗議の声を挙げ、これを弾劾する。

私達の地元には伊方原発があり、日本一長い半島、

閉鎖性海域の瀬戸内海に面し、しかも中央構造線の真上かつ南海トラフ巨大地震の震源域に立地している。さらにプルサーマル発電を行っている。この夏定期検査を行い、またぞろ再稼働の予定だ。建設から30年を経過し稼働延長の問題も出てくるであろう。だが、原発とは山を荒らし海を枯らし、事故を起こさなくても夥しい放射能を環境中に垂れ流し、夥しい生命の犠牲と、全ての生命の生存権を脅かす喩えようのない犯罪施設に他ならない。従って私達は全ての生命の声と共に要求する。全ての原発の稼働を停め、直ちに廃炉にせよ！原発に反対する全ての声に連帯し、原発ゼロを成し遂げるまで闘い抜こう！

玄海/脇山町長“住民から3つの請願書受けて”文献調査受託
（旅館組合、飲食業組合、防災対策協議会［建設業］より提出）

玄海原発プルサーマルと全基をみんなで止める裁判の会　石丸 初美

4月15日、最終処分場問題が玄海町で持ち上がり市民はもちろん、マスコミ等も含めて、突然のニュースに戸惑いながら抗議活動をしてきた。町長は、5月10日、請願が表面化して1ヶ月足らずで文献調査を受入れた。「大臣から『文献調査が処分地選定に直結するものではない』との言質を頂いた」として、「なし崩し的に最終処分場になることはない、と考える」「呼び水となればと議論喚起の意義を強調」「お金目的で文献調査をする訳ではない」などと疑問が残る受入れ表明だ。唐津玄海の人たちは、いち早く庁舎前での行動を開始し、署名活動、玄海町民への電話でのアンケート調査、玄海町での映画会などを実施した。

10万年も管理が必要な核のゴミ、これ以上増やさないこと、原発は止める事だと思う。政府は、国策で始めた原発政策の失敗を認めて謝り、その上で国民へ「最終処分場問題解決に向けて国民のみなさん、力を貸してください」とお願いすべきだ。

玄海町の特別委員会でも、「自分たちが出したゴミは自分たちで何とかしなければ」という発言が出たが、核のゴミを出したのは、政府と電力会社だ。始末するのはこの人たち。“電気は国民みんなで享受してきたから・・” と度々国民の責任のように言われているが、家庭のゴミと同じではない。国民が勘違いするような報道のあり方が問題だ。

福島原発事故の犠牲を学びとしない、国民には情報を明らかにしない政府に憤りしかない。

鹿児島からのメッセージ

ストップ川内原発！3.11鹿児島実行委員会 共同代表　向原 祥隆

6月9日、「とめよう！原発依存社会への暴走 大集会」に参加された皆様、鹿児島からご挨拶申し上げます。

川内原発1号機は、この7月、設計寿命の満40年です。鹿児島の反原発は昨年、県民投票条例直接請求を実施しました。この署名運動は、法定数の2万7,000筆を大幅に上回る4万6,112筆を達成しました。県議会で否決されましたが、これが鹿児島県民の意思です。

40年寿命と時を同じくして、鹿児島県知事選挙も7月頭に行われます。自民現職と、元自民県議に加え、あらたに反原発、反基地を訴えて、樋之口里花（てのくちりか）さんが立候補の表明をされました。

原発と戦争、故郷を廃墟にしかねないこの二つを、なんとかストップさせようと勇敢にも立ち上がってくれたのです。鹿児島の反原発は一丸となって応援したいと考えています。

川内廃炉まで、あらゆる闘いを続けます。みなさん、共に闘いましょう。

日本中、世界中から原発をなくしましょう。

6.9「とめよう！原発依存社会への暴走 大集会」
～地震も事故もまったなし～
集会宣言（案）

福島原発事故から 13 年が経ちましたが、この大惨事は、原発は現在の科学技術で制御できる装置でなく、重大事故を起こせば、生活基盤を根底から奪い去ることを、大きな犠牲の上に教えました。一方、本年元日に発生した能登半島地震は、「地震は、いつ、どこで、どの規模で発生するか予知できないこと、原発は地震に極めて脆弱であり、一刻も早い全廃が求められること」を再認識させました。

この大地震では、道路が寸断され、放射線モニタリングポストの多くが測定不能に陥り、多くの家屋が全壊、半壊し、原発が過酷事故を起こしたとき、避難は困難を極め、屋内退避も不可能であることも実証されました。

なお、福島原発事故は、当時、原発が稼働中であったため過酷事故に至りました。一方、能登半島地震では、震源となった珠洲市で計画されていた原発の建設が阻止され、志賀原発の稼働が食い止められていたため、過酷事故を回避できました。原発の建設、再稼働を阻止し、全廃を求める行動が、原発過酷事故から人の命と生活を守ったと言えます。

ところで、政府や電力会社などの原発推進勢力は、福島原発事故や能登半島地震の大きな犠牲を教訓とせず、炭酸ガス削減やエネルギー逼迫を口実にして、原発の稼働に奔走しています。

岸田政権は、昨年 5 月末の通常国会で、5 つの「原発推進関連法」を束ねて成立させました。原発の 60 年超え運転を可能にし、運転期間の判断を経産省に委ね、原子力基本法に「原発推進を国の責務とする」の一項を加えました。「原発依存社会への暴走」です。

その岸田政権は、去る 5 月 15 日、エネルギー基本計画の見直しに着手しました。「脱炭素・AI 時代に対応するために、原発・再エネの最大限活用」を進めるとし、原発建て替えまで俎上に上らせ、「原発依存」をさらに加速させようとしています。

一方、政府の意をくむ関電は、能登半島地震で、若狭でも震度 4 の強い地震動を観測したにも拘らず、稼働中の原発を停止しなかっただけでなく、定期点検中であった老朽原発・美浜 3 号機を予定通り再稼働させました。原発は、万が一にも過酷事故を起こしてはならない装置です。大地震時には、稼働を止めて、詳細な点検を行うのが当然であり責務です。

今、政府と電力会社は、多くの反対の声を蹂躙して、老朽原発の稼働を強行しています。老朽原発まで稼働させなければ、彼らの願望する「原発依存社会」を実現できないからです。圧力容器の脆化、配管の腐食、減肉、ケーブルの劣化が進み、危険極まりない老朽原発の稼働を許してはなりません。なお、関電は、来年には 40 年超えとなる高浜 3、4 号機の運転延長を画策し、原子力規制委員会は、去る 5 月 29 日にこれを認可しています。これで、関電の稼働可能な老朽原発は、全原発 7 基の内、5 基となります。

政府と電力会社は、満杯になろうとする燃料プールから使用済み核燃料を取り出して乾式貯蔵に移して、プールに空きを作ることにも躍起です。燃料プールが満杯になれば、原発の運転ができなくなるからです。消滅法も行き場もない使用済み核燃料を発生させる原発の稼働を許してはなりません。

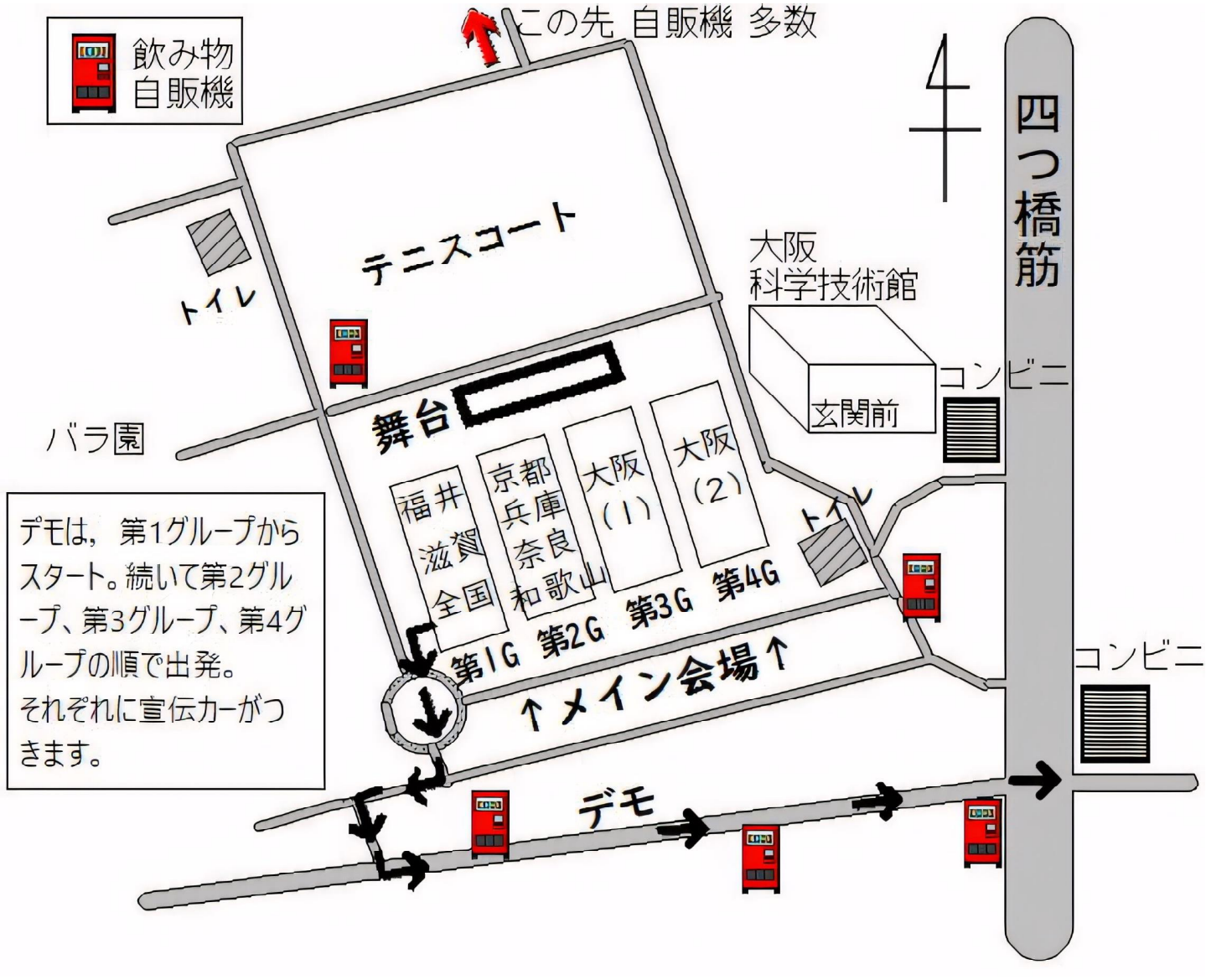
「原発推進法案」は、昨年 5 月に成立しましたが、関連法の整備が必要であるため、60 年超え運転に関わる部分などは未だ施行されていません。完全施行は来年 6 月といわれています。脱原発を求める私たちの行動が拡大すれば、骨抜きに出来、実行不能に追い込むことも出来ます。

本日、大阪・うつぼ公園に結集した私たちは、目先の経済的利益のために奔走し、能登半島地震を目の当たりにしても「原発依存社会への暴走」「原発推進経営」を止めようとしない政府や電力会社を断固として糾弾し、原発全廃の大きなうねりを出現させ、自然エネルギーのみの利用で成り立ち、人が人間らしく生きていける社会の構築に向けて力強く前進することを宣言します。

2024年6月9日

「とめよう！原発依存社会への暴走 大集会」参加者一同

会場とデモの案内



◆ **デモの出発**…最初に、**第１グループ（福井、滋賀、全国）**が会場から出てください。
その後、**第２グループ（京都、兵庫、奈良、和歌山）、**
第３グループ（大阪１）が出ます。
第４グループ（大阪２）は、最後に会場から出るようにしてください。

老朽原発うごかすな！実行委員会
連絡先：木原壯林（電話 090－1965－7102）

2024 年 6 月 9 日